

ひらひら ひらひら 第30回 Tシャツアート展 砂浜で楽しむ6日間



Tシャツアート展

第30回Tシャツアート展が5月2日(水)～5月7日(月)、砂浜美術館(入野の浜)で開催され、3万人を越える来場者で賑わいました。

Tシャツアート展は、1989年より現在のNPO 砂浜美術館が開催。砂浜を美術館に見立て、公募により全国から集まったオリジナルの絵や写真、デザインをTシャツにプリントし、浜辺に立てた杭に展示するイベントです。

今年の応募総数は、1111点にのぼり、国内38都道府県のほかアメリカからも応募がありました。

30回目となった今回は、「30」をテーマにした作品を募集し、上空から見ると「30」の形になるようTシャツ文字を作り展示を行いました。

ほかにも「ウェディング」にちなんだ作品を集めた展示や団体応募によるものもあり、来場者はそれぞれの作品を楽しみました。

審査員に、武蔵野美術大学造

形学部基礎デザイン学科教授で、デザイナーとしても活躍する原研哉さんと、砂浜美術館のプロデュースを手掛けた梅原真さんを迎え、今年の入賞作品を選びました。

会期中は、Tシャツアート展の会場をランナーが裸足で走り抜ける「第33回高知大方シーサイドはだしマラソン全国大会」や、ビーチサンダルの飛距離を競う「第13回ビーチサン飛ばし大会」、砂浜で愛を誓う結婚式「砂浜ウェディング」などのイベントが開催されました。

また「海辺のお店屋さん」では、出店や手作り品の販売、くじ引き、イルカすくいゲームなどもありました。

そのほかに、海の王迎駅から会場までの海辺をウォーキングする「初夏のぶらぶらしませんか?」などが開催されました。高知市からきたという来場者は「Tシャツアート展について」とても雰囲気が素敵だった。いろいろ楽しめてきてよかったと話していました。



サンドアートウェディング



Tシャツアート展会場の入野の浜で5月6日(日)、酒井偉光さん・真由さん夫婦が結婚式を挙げ、親族や友人、Tシャツアート展に訪れた観光客の前で永遠の愛を誓いました。

式では、黒潮町の塩と入野の浜の砂をガラスの瓶に入れる「サンドセレモニー」や、指輪交換などが行われ、松田春喜副町長からTシャツの結婚証明書が手渡されました。

新婦の真由さんは「以前から入野海岸やTシャツアート展にはよく来ていたが、今回の挙式でより特別な場所になった」と喜びを語りました。その後、新郎新婦とゲスト全員でバルーンリリースを行い、大空に黄色と水色の風船が舞い上がり、会場は祝福に包まれました。

主催：ウェディングプランナーリボン

砂浜 ひらひらステージ

- 1 JICA 四国
「世界のダンス・文化紹介」
- 2 カズダンススクール キッズダンス
幡多舞人 よさこい
- 3 ルアナと楽しい仲間たち
- 4 「アロハルアナフラステージ」

海をバックに設置された「ひらひらステージ」ではさまざまな催しが行われました。



期間限定 浜辺のポスト



にぎあう出店

